

紙芝居交流会に参加して

まつむら ゆ ら
松村優空

紙芝居交流会について

紙芝居交流会は、7月から L.V.S.で行われている各部の方々の月2回の勉強会と、今後定期的に行われる予定の発表会で構成されています。

紙芝居について少し前から興味を抱いていたため、どのようなものなのかが気になり参加しました。この文では、私が紙芝居交流会に参加して学んだ事についてまとめました。



紙芝居の特徴

紙芝居は演じ手と観客が互いに共感する事を楽しみ、コミュニケーションをとる事を大切にしています。紙芝居の絵は、原紙を4つ切りにして作っており、紙の余りがでないようにするために1つのお話に使う絵の枚数が4の倍数で出来ています。

絵本は読み手が作品の内側に入り込むような絵であるのに対して、紙芝居は読み手の気を引くために前に出る絵の次の絵では遠くに引く絵になるといった工夫がされています。

紙芝居は三面開きの舞台が使われます。舞台がある事で、よりお話の世界へと入り込み集中して見る事が出来ます。紙芝居は、はじめに舞台の鍵を開き右、左、上の扉を開く事で始まります。終わる時は舞台の扉を閉め、最後に鍵をかける事でお話の終わりを観客に伝えます。

紙芝居は、絵を抜き差しする事でストーリーが進んでいきます。場面にあわせて抜き差しの速度や量を変えることで、観客は次の展開を予想し楽しみながら見る事が出来ます。

私の感想

紙芝居の演じ方は無限大であると感じました。

演じ手は作品の発刊された年を手掛かりに当時の背景を理解し、作者の意図を組み取ろうとしているという事を知り、紙芝居というものはとても奥深いものであると思いました。

また、作品の世界観を大切にするため、紙芝居の舞台の周りには余計なものを何も置かない様に配慮されているという事も知りました。

私は紙芝居に取り組む皆さんの姿を見て、一人一人が紙芝居と向き合う事を楽しんでおり、同じ作品であっても、その世界は演じ手一人一人によって異なるものになるのだと感じました。

観客の皆さんを楽しませながら、演じ手の皆さんも楽しんで読まれていたため、とても楽しく紙芝居を聞くことが出来ました。

また、演じ手の皆さんは観客に視線を配る事で観客と共に物語の世界を楽しんでいるという事も知りました。

演じ手の方々は何度も練習を重ねて、ひとりひとりがそれぞれの伝えたい思いをもって紙芝居と向き合っている様子がとても素敵だと感じました。

皆様もぜひ、紙芝居交流会に足を運んでみてください。

参考資料

「紙芝居と絵本のちがいは」 まついのりこ

イラスト：世奈